

2022年度 事業概要

I. 事業の概要

1. はじめに

2022年度の世界経済は、新型コロナウイルス感染症と経済活動の両立が進む中で、経済情勢の改善が見られている。先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化に伴う資源高や物価高騰、日本、米国などの金融資本市場の変動等を注視する必要がある。

このような状況にあって我が国経済は、コロナ禍からの回復が遅れていたが2022年後半には新型コロナウイルス感染症と経済活動の両立が進む中で順調に回復した。ただし、世界的な金融引締めが進む中で金融資本市場の変動や物価上昇が続き、食料品や電気・ガス料金の値上げが家計を圧迫する等、下振れリスクに留意する必要がある。

こうした中で2022年度の当工業会の事業としては、1) 国際展示会に関する事業(**JIAM 2022 OSAKA**の取り組み)、2) 家庭用ミシンを使ったモノづくりの普及促進(家庭用ミシン事業)、3) 工業会活動の活性化及び効率化の推進を行う、4) コネクテッドインダストリーズへの対応等、業界の発展に係わる諸課題の克服に向け会員への支援に取り組み、市場活性化と更なる発展を目指し各種事業を実施した。

2. 活動概要

1) 国際展示会の開催に関する事業

当工業会が主催する**JIAM 2022 OSAKA**を次のとおり開催した。

(1) 開催概要

①会期：2022年11月30日（水）～12月3日（土）〈4日間〉

②会場：インテックス大阪 4、5、6号館

③概要：11か国・地域から150社・団体、930.9小間（国内112社848.4小間、海外38社82.5小間）が出展した。

コロナ禍により特に海外来場者数について心配されたが、中国に代わりバングラデシュ、スリランカ、パキスタン等、南アジアからの来場が多く見受けられた。出展者からは、国内も含めて想定以上の来場者が訪れ、手ごたえを感じたとの声が聞かれた。

ホームソーイングゾーンは初日から男性や海外の来場者が多く、一般女性の参加も合わせて、ミシン体験の材料が足りなくなるほど盛況であった。また、セミナーについても立ち見となるセミナーがあるなど、多くの聴講者を集めた。

(単位：人)

日付	天候	来場者数※1 (海外)	登録者数※2 (海外)
11月30日 (水)	曇り	2,491 (884)	2,491 (884)
12月1日 (木)	曇り	3,155 (1,005)	2,208 (352)
12月2日 (金)	晴れ	3,110 (415)	2,527 (67)
12月3日 (土)	晴れ	1,696 (102)	1,424 (12)
総合計		10,452 (2,406)	8,729 (1,315)

※1 来場者数 (マルチプルカウント) = 複数日にまたぎ来場している方も含めた人数

※2 登録者数（シングルカウント）＝その日初めて来場し、来場登録した人数

★「来場者」とは、日本展示会認証協議会が定める「展示会統計に係る第三者認証制度」における来場者定義に準拠している。

よって、**JIAM 2022 OSAKA**での来場者数・登録者数値には「出展者」「プレス」「来賓及びその関係者」「セミナー講師」は含まれていない。

2) 家庭用ミシン事業

ユーザーニーズが「画一性から個性化へ」と移行しつつある環境に応え、ホームソーイングへの親しみの場を設け、家庭用ミシン市場の活性化に努めるとともに、健全な市場の拡大を図るため以下の事業を実施した。

(1) ソーイングの普及促進について

①第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール

「第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」を実施し、学校教育におけるソーイングの普及拡大に努めた。応募校数及び応募作品点数の増加を図るため、経費に配慮しつつ、送付先と応募状況の関係を分析して、6月に学校へ応募要領（A3版両面）を郵送するとともに、Eメールでの配信（小学校8,747校、中学校4,602校、高等学校2,485校）を行い、学校への連絡を強化させた。なお、今回から全作品を対象とした「SDGs特別賞」を設け、SDGsの取り組みが小物を含めた衣生活にいかされた作品を選出することとした。

a) 作品募集活動（応募要領の送付）

d) 作品の応募状況

○応募作品点数 合計 3,375点（前回比 91.5%）

○応募校数 合計 558校（前回比 87.6%）

※部門別の詳細等は、「議題(5)第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール事業」に記載。

e) 審査経過

○第一次審査

日 時：2022年12月13日（火）～14日（水）

場 所：東京交通会館

審査委員：家庭用ミシン会員関係者（3社・3名）

○第二次審査

日 時：2022年12月24日（土）

場 所：機械振興会館

審査委員：外部学識経験者等（7名）

○審査結果

※入選作品名、入選校名については、「第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品一覧表」に記載。

②委員会活動

市場対策第一委員会及び家庭用ミシン普及促進WGにおいて以下の項目について検討した。

a) 今後のホームソーイング小・中・高校生作品コンクールの在り方について

技術要素ばかりでなく、デザイン性、実用性など審査時の評価方法を見直し、巣ごもり需要の継続のための方法を検討し実施したが、さらに継続することとなった。

b) 情報マガジン「ソーイング大好き」について

ホームページ等において会員募集活動を行い、会報を発行した。(登録者数342名、2023年2月8日現在)

c) 「ミシン手作りダイアリー」のリニューアル

ホームページに掲載しているレシピを集めた「ミシン手作りダイアリー」に関して検討し、レシピの収集、整理を行いページをリニューアルした。

③2022年度経済産業省子どもデーへの参加

日 時：2022年8月3日(水)～4日(木) 10:00～15:00

場 所：経済産業省ホームページ オンライン参加

内 容：新型コロナウイルスの感染状況から開催会場に制約があり、実地での参加が難しく工業会はオンラインのみの参加となった。パワーポイントで作成した教材「学んで作ったのしいミシン」の動画版をオンラインコンテンツとして提供した。(PV 58、8月3、4日分を含む8月計)

(2) 市場の活性化について

- ①流通の適性化を図るため、毎年4月1日現在及び10月1日現在の現行販売機種、新機種、廃機種を把握し、一覧表にまとめ流通団体等に通知することとしており、2022年4月1日現在及び10月1日現在の一覧表を作成し通知した。
- ②市場ニーズに的確に対処するため、2022年1月～3月分、4月～6月分、7月～9月分及び10月～12月分の国内販売機種について価格帯別の流通調査を実施し、調査結果を関係会員へ配布した。
- ③ホームソーイングの普及促進、ミシンの利用拡大を図りミシンを身近なものにするために、ミシン販売業界との連携を強化し、「技能士シール」(ミシン販売店に技能士(国家検定資格)がいることをアピール)及び展示台等を装飾するための販促物「テーブルスカート」を会員向け機関誌「ニュースレター」や、JASMAホームページでPRした。
- ④消費者及び地方公共団体、消費生活センター等からの問い合わせ、ミシンに関する各種の相談、照会に対処した。

3) 工業会活動の活性化及び効率化の推進

工業会と会員の発展のためその活動を広く周知させるとともに、工業会活動のさらなる活性化を図り且つその効率化を推進するため、以下の事業を実施した。

(1) 広報活動について

①会員向け広報活動

a) JASMA統計、ニュースレターを毎月1回発行

政府が公表する各種統計を整備して、JASMA統計(ミシンの生産・輸出入)として、2022年分を毎月発行し会員に情報提供した。また、2022年4月から2023年3月までニュースレターを毎月1回発行し、工業会の事業活動をはじめ関係諸機関の動向について会員に提供した。

b) 関係機関等の調査結果の提供

関係諸機関並びに公共団体等が公表する調査結果等を収集し、各種の資料等について会員に情報提供した。

②外部機関向け広報活動

a) 工業会活動等について外部機関への広報活動を積極的に行うため、JASMA会報(2022年4月号、7月号、11月号、2023年2月号)を発行した。

b) インターネットホームページの更新・充実

インターネットホームページの更新・充実に努め、工業会の事業活動等について最新情

報を掲載した。

(2) 内外関係機関等との交流及び協力に関する事業

①関係機関・団体との連絡協調について

a) ロボット革命イニシアティブ協議会との協調

同協議会へ会員として参加し、交流・協力を深めるとともに、情報等を入手し会員へ提供した。

b) 関係官公庁との交流、連携、協調

経済産業省及び関係官公庁の依頼による調査を実施し、資料及び情報の提供、意見の具申等に対応した。また、繊維関係団体との密接な関係を図り、情報共有、資料の交換等連携を図るとともに、当工業会が会員として加入している公益社団法人日本訪問販売協会、一般社団法人日本機械工業連合会、中央職業能力開発協会等において、役員、委員として縫製機械業界の意見反映等に努め協力関係の継続を図った。

②軽機械センターの運営に関する協力について

海外との交流、市場動向フォロー等の事業を進めるため、その一環として軽機械センター（ベルギー・ブリュッセルセンター及び中国・北京センター）の運営に協力するとともに、市場動向等に関する情報を収集し、会員へ提供した。

③海外関係機関との交流及び協力について

Texprocess 2022が2022年6月21日（火）～24日（金）にドイツ・フランクフルトで開催された。会期中、VDMA（ドイツ工業会）及びメッセフランクフルトとの会談を行った。

(3) 工業会活動の効率化の推進（工業会の収支バランスの回復に向けた対応）

①工業会活動の改革・見直しについて

工業会事務局業務の改善、効率化に向け、インターネットツールの調達、業務マニュアルの整備、電子化に取り組んだ。また、会員へはEメール連絡を徹底し、効率的な事務局運営に努めた。

②会員の負担軽減の検討について

新型コロナウイルス感染症への対応として委員会活動をウェブ会議で実施するため、会員の利用が多い「Microsoft Teams」を使用することとし、当工業会及び外部会議室で利用可能とする設備を追加導入し、ウェブ会議での開催を推進した。

(4) 工業会活動の確実な実施

①生産性向上要件証明書の発行について

中小企業等経営強化法の固定資産税の軽減措置として、縫製機械等を対象とした証明書発行団体の業務を実施した。

(5) 正会員、賛助会員の充実

内外展示会のJASMAブースでのPR活動及び中小企業等経営強化法に関する証明書の申請受付等に際して、工業会活動内容やメリットを広報し会員獲得に向けた取り組みを行った。

(6) 「縫製機械整備作業」技能検定に向けた取り組み

受検者増を図るため、ホームページからの情報発信による広報活動を行った。

(7) コネクテッドインダストリーズへの対応

政府が進めるコネクテッドインダストリーズに対応して、当業界並びに川上から川下業界を含めた生産工程のデータ連携に取り組み、縫製機械製造業の競争力を高めることを目的にコネクテッド検討会（事前検討会を含む。）及び若手社員向け研修（イノベーション人材育成研修）を開催した。

また、工業用ミシンの自動化に向けたCADデータ活用に関して、令和5年度イノベーション戦略策定事業（一般財団法人機械システム振興協会からの委託事業）への応募を行った。

1) コネクテッド検討会事前検討会

①第2回コネクテッド検討会事前検討会

日時：2022年4月28日（木）10：00～12：00

場所：オンライン

次第：a)各社からの提案

b)意見交換 他

②第3回コネクテッド検討会事前検討会

日時：2022年5月25日（水）15：30～16：30

場所：オンライン

次第：a)各社からの提案

b)意見交換 他

2) コネクテッド検討会

①2022年度第1回コネクテッド検討会

日時：2022年9月8日（木）15：00～16：30

場所：工業会会議室及びオンライン

次第：a)コネクテッド検討会の進め方について

b)令和5年度のイノベーション戦略策定事業への応募について
（（一財）機械システム振興協会からの委託事業の案内）

c)今年度の予定について

3) 若手社員向け研修（イノベーション人材育成研修）

①第1日

日時：2022年8月17日（水）13：00～16：10

場所：オンライン

次第：a)オリエンテーション

b)自己紹介

c)講演「ブルーオーシャン戦略と競争戦略論の進化」

講師 前川 徹氏

東京通信大学 情報マネジメント学部 学部長・教授

d)検討課題説明

ファシリテーター 樋口 敬恭氏

e)グループ毎の事前相談

②第2日

日時：2022年8月24日（水）13：00～16：30

場所：オンライン

次第：a)オリエンテーション

b)グループ討議

c)発表準備

d)発表

e)講評

f)終わりにあたって

概要：グループ討議により検討課題を取りまとめ、成果として発表した。

4) 使用技術の普及及び啓発に関する事業

(1) 知的財産権保護対策について

海外製品による知的財産権侵害品の流通実態の把握に努め、適切な対応を行い市場の健全な発展を図るため、以下の事業を行った。

①世界市場を対象とした「定期的模倣実態調査」及びCISMA2021を対象とした「CISMA2021模倣実態調査」を実施した。

「調査結果」※()内は前年度及びCISMA2019の件数

a) 定期的模倣実態調査

・侵害件数 17件 (9件)

・権利別侵害件数

意匠権 0件 (0件)、特許権 3件 (0件)、商標権 13件 (9件)、著作権 0件 (0件)、その他1件 (0件)

・発見国・地域別件数

中国 13件、南アフリカ 1件、モロッコ 1件、トルコ 1件 ベトナム 1件
(中国 7件、モロッコ 1件、中東 1件)

b) CISMA2021模倣実態調査

・侵害件数 10件 (159件)

・権利別侵害件数

意匠権 0件 (17件)、特許権 0件 (139件)、商標権 8件 (3件)、著作権 0件 (0件)、その他 2件 (0件)

③政府関係機関の日本貿易振興機構（北京センター、上海センター、ソウルセンター）等の情報を入手し、随時、会員企業へ提供した。

④「国際知的財産保護フォーラム（IIPPF）中国プロジェクト」へ参加し、関係団体等と情報を交換した。

(2) 我が国機械工業における最先端技術及び技術革新に関する現状を把握し、縫製機械産業の技術開発の参考とするため、技術第一委員会、技術第二委員会等において実施を計画していた外部の技術視察は、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は開催を見合わせた。

(3) 電気用品安全法の技術基準体系の見直し等の情報収集のため、他団体の主催する委員会等に参加した。

(4) 内外の環境規制に関する情報を収集した。

(5) 国立科学博物館が実施した「ミシンに関する技術の系統化調査」報告書のフォローアップを実施した。

5) 生産、流通等に係る調査及び企画の立案・推進に関する事業

(1) 調査事業について

①海外調査

日本貿易振興機構及び軽機械センター（ブリュッセル、北京）等との連携を図り、主要国の需要動向、経済動向等について情報の収集に努め、会員へ提供した。

②国内調査

国が公表する政策、生産、国内流通、輸出入統計並びに諸団体が実施する諸統計資料等を収集整理分析し、「JASMA統計」「ニューズレター」等により会員等へ情報提供した。また、関係当局からの諮問あるいは関連団体、他業界からの照会等に対処した。

(2) 統計事業について

ミシンに関する経済産業省生産動態統計及び財務省貿易統計を毎月入手し、整理・分析を行い、定期的に会員へ提供するとともに、一般に対してホームページで公表した。

(3) 工業用ミシン・部品・関連機器事業について

情報社会、環境社会及びグローバル化の進展に対処し、市場の活性化に努めるとともに、業界の健全な発展を図るため、以下の事業を実施した。

①国内及び海外市場について、日本機械工業連合会から週報等を定期的に収集するとともに、日本貿易振興機構及び軽機械センター（北京、ブリュッセル）から海外情報を収集し、定期的に会員へ提供した。

②最新の国際情勢を把握するため、関係機関との連携、交流により、情報収集を行い、会員へ提供した。

a) 日本機械工業連合会の機械安全標準化に関する会合へ参加し、国際規格等（ISO/IEC）の情報を収集した。

b) 日本機械輸出組合の会合へ参加し、WTO等の国際機関の情報及び経済連携協定に関する情報を収集した。

③部品部会について

オンラインにて2回開催し、市場動向に関する意見交換を行った。

6) 標準化の推進に関する事業

(1) 国内規格（JIS規格等）について

関連団体との交流を図り、規格に関する情報の収集を行い、随時、会員企業へ提供した。

(2) 国際規格（ISO/IEC規格等）について

①国際規格活動（ISO/TC148・ミシン）を積極的に行うとともに、工業用ミシンの国際規格（ISO 10821）の情報収集を行った。

②国際標準化協議会及び一般社団法人日本機械工業連合会との交流を図り、IEC/TC44部会（機械安全）に参加し国際規格等の情報収集を行った。

7) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(1) 労働力の確保に関する事業について

業界全般の労務状況、働き方改革等について労務委員会を開催し、意見交換を行った。

(2) PL対策について

当工業会ではPL事故防止対策等の一助として、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と団体PL保険契約を締結しており、現在契約件数2件である。

(注) 団体保険のため、期間は12月10日から1年間である。ただし、加入はいつでも可能。